

## 第2章 八王子城跡の価値と要素、保護の基本的考え方

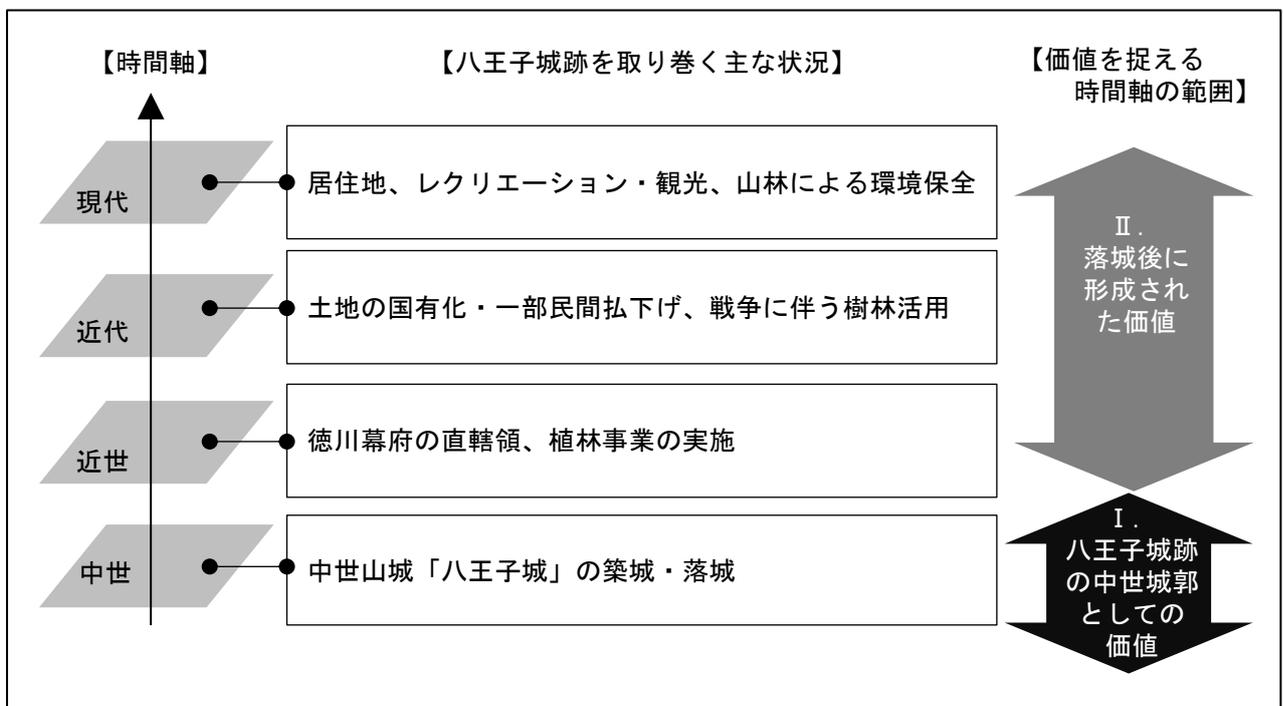
### 1. 八王子城跡の価値

八王子城跡は、関東平野と山地の境界部に北条氏照により築城された中世山城であり、歴史的背景の中で城自体の存続期間が短く、城主が一代であることに特徴がある。落城後は江戸幕府による直轄領、明治期以降の国有林、史跡や保安林等の法規制の運用など、時代を経る中で環境が保全されたため、築城当時の様相がよくとどめられている。

一方、落城後氏照を弔うため人々により氏照の法号を持つ朝遊山宗関寺が再建され、その後現在の地に移築された。落城後も民衆は八王子城周辺に暮らし続けており、高度経済成長期には環境の良さから多くの人に移り住んだ。

また、落城後の長い時間を経る中で、様々な動植物が生息し、優れた自然の風景地として都立高尾陣場自然公園にも指定され、ハイキングやバードウォッチングなどのレクリエーション・観光の場として多くの人に親しまれている。さらに、この地に広がる森林は保安林として環境保全の役割も果たしている。

よって、八王子城跡の価値は北条氏照により築城された中世山城の歴史や城郭、当時の生活文化を知る上で核となる「Ⅰ. 八王子城跡の中世城郭としての価値」と、八王子城落城後の八王子城に由来のある歴史や城山をはじめとする環境により育まれた自然や人の営み・活動として評価されている「Ⅱ. 落城後に形成された価値」がある（図表 76、77）。



▲図表 76 八王子城跡の歴史的経過

## I. 八王子城跡の中世城郭としての価値

八王子城は、関東に覇を唱えた戦国大名北条氏の統治手法である支城領支配における、武蔵国の西南部と相模国の西部の一部を支配していた支城の一つである。八王子城の城主である北条氏照は、兄である北条四代目当主氏政を支え、甲斐の武田氏や越後の上杉氏との戦いや同盟の中心的な役割を果たすなど、北条氏の領国支配と軍事行動、他大名との外交政策の面で飛び抜けた活躍をする重要人物であり、八王子城はこの氏照の晩年の居城である。

八王子城は、築城年代は特定されていないが、西側からの侵攻に備えて、交通、宗教的、軍事的に要所であった場所に氏照が新たに築城した山城で、豊臣秀吉の天下統一における関東制圧のための最後の戦いとなった小田原合戦の一環として攻撃され、天正 18 (1590) 年 6 月 23 日に落城した。この八王子城の落城は、小田原城籠城中の氏政、氏直父子に降伏を決意させるに至り、この戦いにより、秀吉は関八州を平定するとともに、伊達政宗をはじめとする奥州の諸大名を屈服させて、天下統一を果たすことになる。このように八王子城は、歴史の転換期の重要な局面に位置する城である。

八王子城跡は、このような歴史的背景の中で城自体の存続期間が短く、城主が北条氏照一代であること、これまでの確認調査から落城後の改変も大きく認められないことから、現存している築城当時の様相をそのまま残している可能性が高いと思われる。

八王子城が築城された中世後期は、天守をはじめとする建築面での発展、縄張りの発展、石垣の利用開始など、歴史的な過渡期の築城技術が変化する中にあり、八王子城はそのような時代背景の一時期に築かれた山城として、城郭の規模・構造や、堀や土塁、石垣等の城郭の築城技術を色濃く残す城郭遺構が良好な状態をとどめている。また、そこから出土した陶磁器類やレースガラス等の遺物、主殿や会所等の建物跡や井戸跡、池泉を中心とする庭園跡等の遺構は、城主である氏照や往時の戦国武将の権威、生活・文化を物語るものとして、とても価値が高いものである。

また、半独立峰のように見える城山を中心に、そこから延びる谷戸の地形を活かして築かれた八王子城及びその周辺には、現在まで大きな開発が行われてこなかったことから、自然地形を活かして築かれる山城としての山容景観をよくとどめるとともに、曲輪等からはひらけた良好な眺望を楽しむことができる。

このような価値を有する八王子城跡は、平成 18 年 2 月に公益財団法人日本城郭協会による日本百名城にも選定されるなど、専門家等からも高い評価を受けている。

一方で、八王子城跡は範囲が広大で未調査部分が多いことから曲輪などの縄張りや城下の特性などが明らかになっていないことが多い。また、発見されていない地下遺構・遺物は未だに多く、残されていると思われ、まだ明らかにされていない歴史上・学術上の高い価値を包含している可能性は高い。

このように八王子城跡は、日本の歴史の転換期である豊臣秀吉の天下統一における小田原合戦の防御の要の支城であり、北条氏の中でも重要人物であった北条氏照の晩年の居城である歴史性を有するとともに、中世後期の過渡期に築城された城郭や戦国武将の生活・文化の水準の高さを色濃く残す遺構・遺物も残されている。また、まだ明らかにされていない歴史、遺構・遺物を包含する可能性も高いことが予想される。こうした状況の八王子城跡は、我が国にとって欠くことのできない歴史上・学術上の高い価値を有するところであり、このような価値を「八王子城跡の中世城郭としての価値」と考える。

## II. 落城後に形成された価値

### 【II-i. 八王子城に由来する歴史的価値】

八王子城落城後、豊臣軍による統治を経て、この地は徳川幕府の直轄領となった後も、本丸があった城山やその麓の城下が位置する場所では人々の往来や生活が見られていた。

築城時、氏照が土地に伝わる牛頭天王「八王子権現」を守護神として祀った八王子神社は、落城後も静かに信仰を集めており、その歴史は今日まで続いている。また、氏照や戦死者を祀るため、氏照の法号を持つ宗関寺が再建され、氏照の死後百年忌には八王子城で戦死した家臣中山勘解由の子孫である水戸藩家老中山信治により供養塔が建立された。

一方、八王子城の城下であり、八王子城跡の登城口ともいえる中宿と呼ばれる地域には、屋敷跡や石垣等、当時の道路跡の遺構が確認されている。

大正期に入ると、宗教的な要所でもあった八王子城跡のある城山は、山岳信仰の対象として多くの人々が訪れ、石碑が建立されるようになった。

このように、八王子城落城後も八王子城に由来する人々の信仰・活動が静かに行われてきており、これらを物語る歴史的資産は、先人たちが城主である北条氏照や八王子城の存在を伝えるものとして、価値を有するものとなっている。

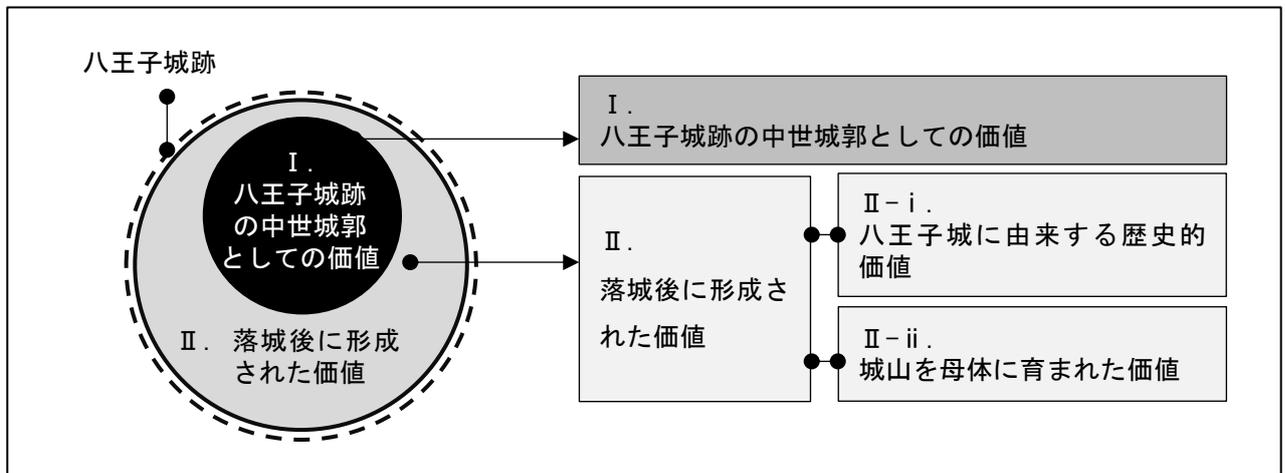
### 【II-ii. 城山を母体に育まれた価値】

八王子城落城後、徳川幕府の直轄領として民衆が立ち入ることができなくなったこの地は、時を重ねる中で城山を中心に豊かな自然が育まれた。

この豊かな自然は、周囲には見られない貴重な動植物が生息するものとして今日評価されており、優れた自然の風景地として都立高尾陣場自然公園にも指定されている。

また、第二次世界大戦後、急速に西洋化が進んだ日本は高度経済成長期により生活にゆとりが生まれると、これらの自然はレジャーの対象として脚光を浴びるようになった。これにより、ハイキングやバードウォッチングなどの自然観察やキャンプ地などとして観光の場としても多くの人に親しまれるようになった。このような林野は、保健休養機能の高い森林として保安林に指定されている。

このように、江戸時代から育まれた城山を母体に育まれた豊かな自然は、今日様々な価値を有するものとなっている。

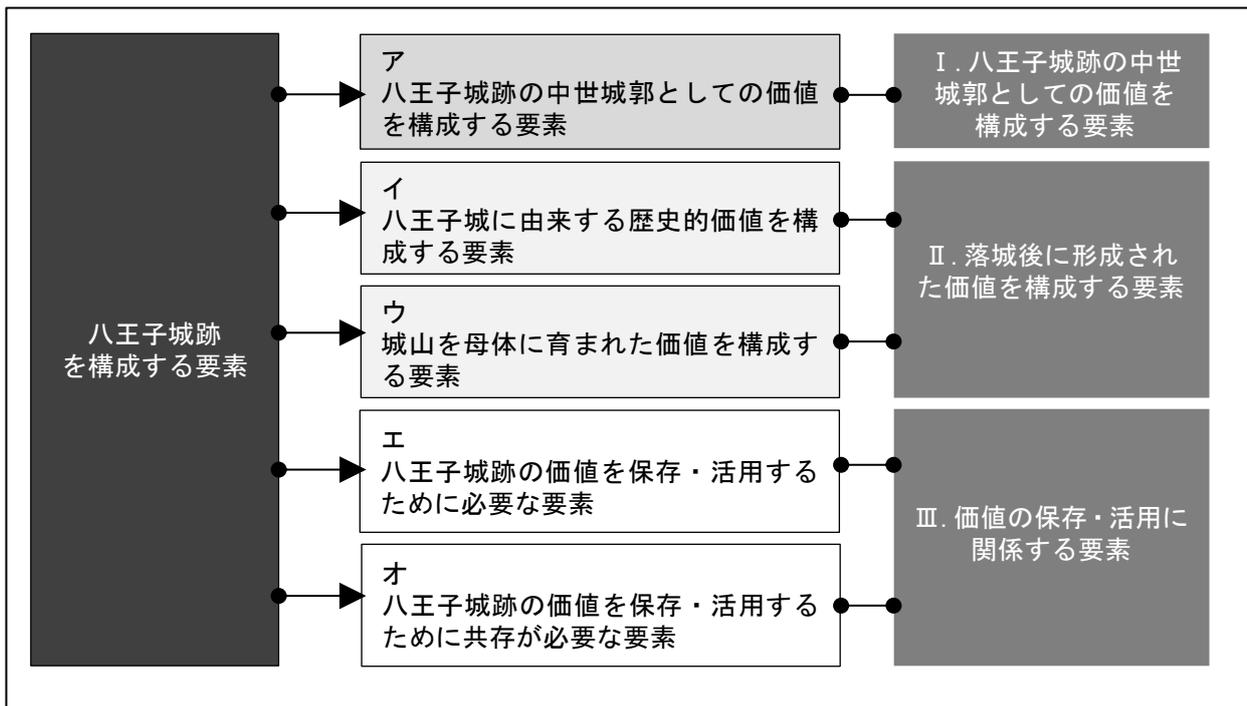


▲図表77 八王子城跡の価値の全体像

## 2. 八王子城跡を構成する要素

八王子城跡を構成する要素は、前述の「八王子城跡の中世城郭としての価値」及び「落城後に形成された価値」を踏まえ、「八王子城跡の中世城郭としての価値を構成する要素」と「落城後に形成された価値を構成する要素」、「八王子城跡の価値を保存・活用するための要素」、「八王子城跡の価値を保存・活用するために共存が必要な要素」に大きく分類する（図表 78）。

落城後に形成された価値を構成する要素は、「八王子城に由来する歴史的価値を構成する要素」と「城山を母体に育まれた価値を構成する要素」に分類する。



▲図表 78 八王子城跡を構成する要素の分類

### ア 八王子城跡の中世城郭としての価値を構成する要素

八王子城跡の中世城郭としての価値を構成する要素は、城山を中心として険しい地形を活かしながら防御機能や氏照や家臣の居住機能を確保するために築かれた往時の築城技術を色濃く残す城郭遺構、八王子城における城主氏照や家臣の往時の生活・文化を物語る遺構や遺物がある。

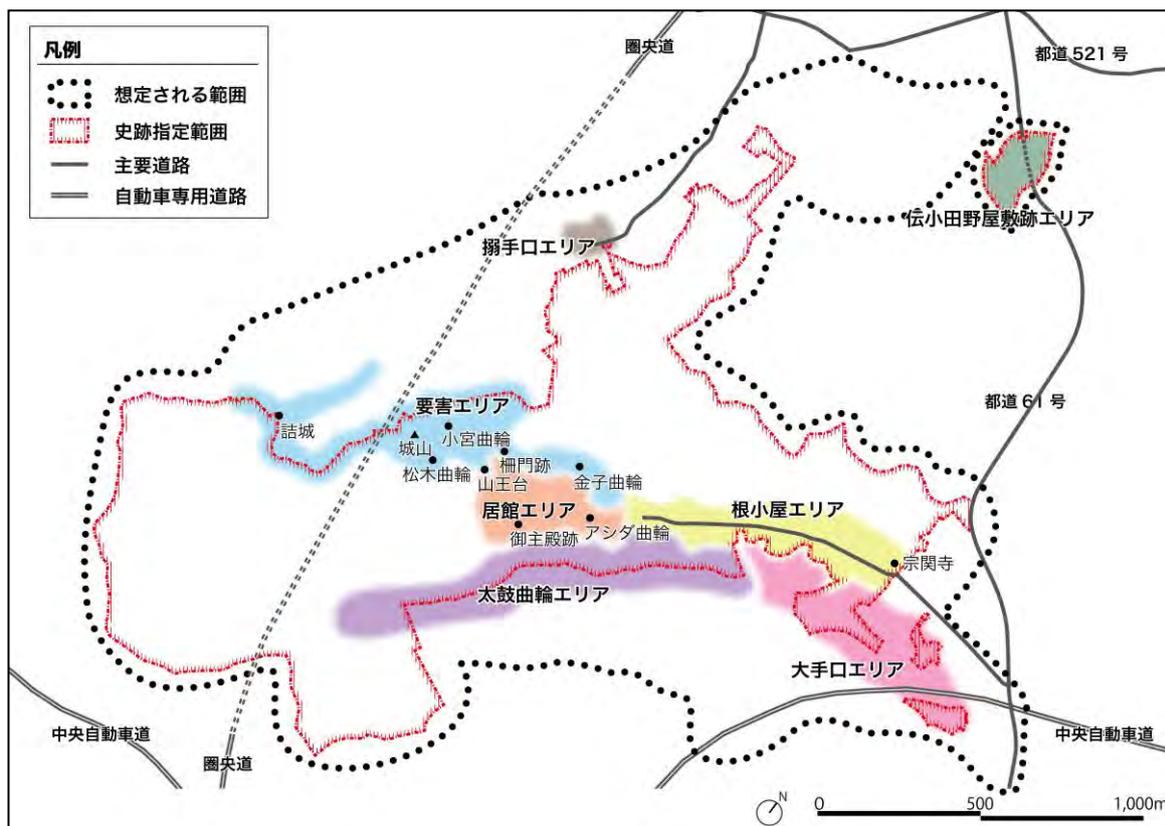
城郭遺構を構成する要素としては、敵の侵入や攻撃を防ぐためにつくられた平場である曲輪、曲輪の出入口である開口部の虎口、敵の侵入を防ぐために築かれた連続した土盛りである土塁や石を積み上げて造られた石垣及び石積、曲輪などの周囲に掘られた溝である堀や堀切がある。八王子城は、城山を中心とする険しい地形が築城において重要であったことから、城の基礎となる地形の起伏や、城を空間的に分断する河川や沢、敵の侵入などを見張るために重要な曲輪からのひらけた眺望、そしてこれらを八王子城跡の総体として認識できる遠景も重要な構成要素である。

往時の生活・文化を物語る遺構を構成する要素としては、城主氏照が居住したとされる御主殿跡などで検出されている建物跡や水路跡、庭園跡などの地下遺構とともに、磁器などの出土物は城主氏照の生活・文化を知る上で重要な要素である。また、城下と考えられている根小屋エリア

などで検出された建物跡や道路跡、井戸跡などの地下遺構、磁器などの出土物も家臣の生活・文化を知る上で重要な要素である。

八王子城跡は範囲が広大で未調査部分が多いことから曲輪などの縄張りや城下の特性などが明らかになっていないため、発掘されていない地下遺構・遺物は多く、八王子城跡をさらに解明する上で重要な構成要素となってくるものである。このような要素が八王子城跡の中世城郭としての価値を構成する要素である。

構成要素は、第1章における八王子城跡の範囲と構造（下記に再掲、図表 79）を踏まえ、エリア別に整理する。下記の図表 79 及び、構成要素のうち地上に表出している構成する要素の位置を示す図表は、P187 に示す拡大図を参照されたい。



▲図表 79 八王子城跡の範囲と構造

\* 範囲のうち、主要な機能を有する部分をエリアとして図示



▲虎口  
(写真は居館エリアの御主殿跡)



▲土塁  
(写真は居館エリアのアシダ曲輪)



▲堀切  
(写真は要害エリアの詰城周辺)



▲曲輪  
(写真は要害エリアの金子曲輪)



▲井戸跡 (地下部分のみ)  
(写真は要害エリアの八王子神社付近)



▲地下遺構  
(写真は居館エリアの御主殿跡)



▲河川・沢  
(写真は居館エリアと太鼓曲輪の間を流れる城山川)



▲石垣  
(写真は居館エリアの御主殿の滝付近)



▲八王子城跡の遠景  
(写真は根小屋エリアの宗関寺から城山を見る)

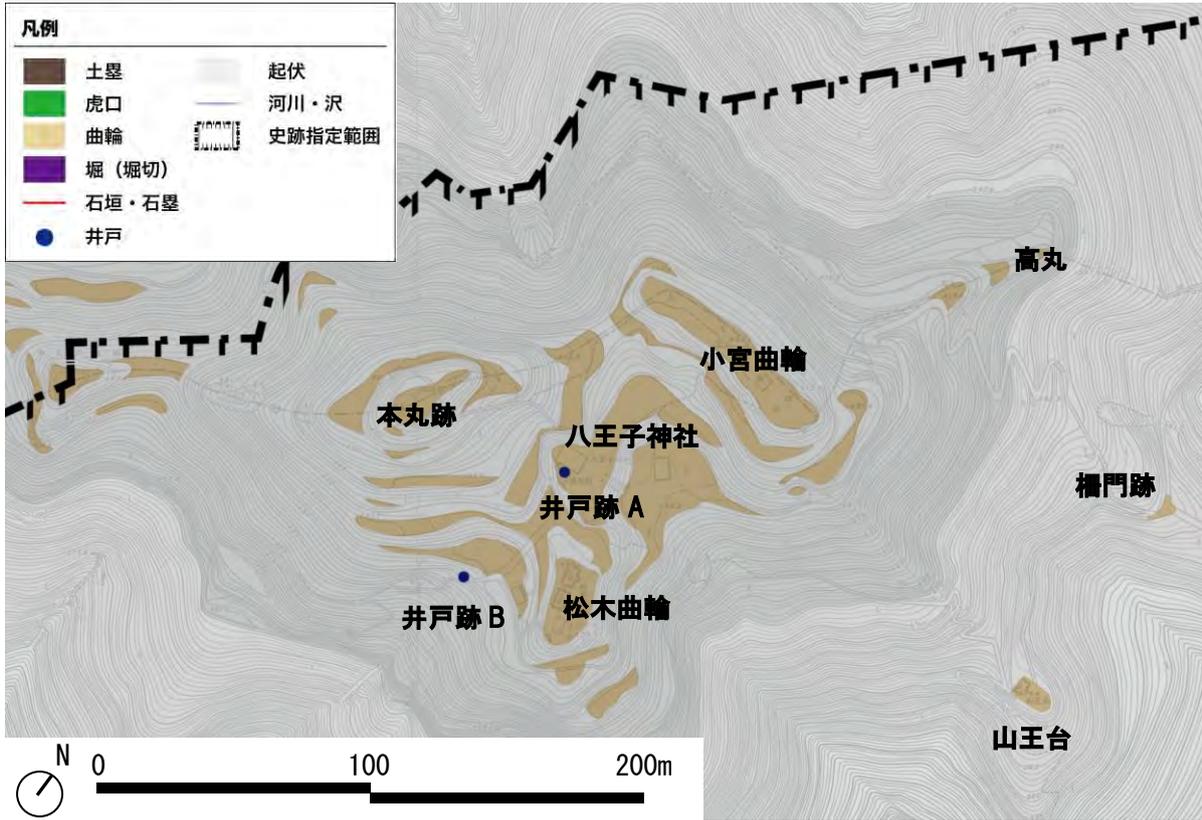


▲曲輪からの眺望  
(写真は要害エリアの小宮曲輪周辺から東側の見る)

**【要害エリアにおける構成要素】**

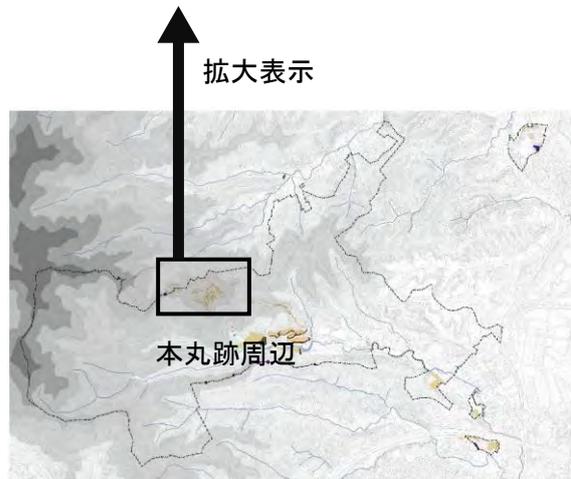
要害エリアは、本丸跡やその周辺に松木曲輪や小宮曲輪などが配される城の中心にあたる本丸跡周辺、敵の侵入を防ぐために工夫がなされた尾根をひな壇状に造成する金子曲輪周辺、本丸の背後を警戒とともに、本丸が敵の攻撃を支え切れなくなったとき、最後の拠点となったと考えられる詰城周辺がある場所である。

**○本丸跡周辺**



▲図表 80 地上に表出している要素の位置（本丸跡周辺）

本丸跡周辺には、城山山頂に設けられた本丸を中心に、松木曲輪や小宮曲輪が配され、その周辺に大小様々な腰曲輪が設けられている。これらの腰曲輪等には、井戸跡が 2 つ設けられている。北方は小宮曲輪から延びる尾根上に高丸等の曲輪が配され、東側に延びる尾根上には柵門跡と呼ばれる曲輪が設けられている（図表 80）。



▲地上に表出している要素の位置（広域図）  
\* 広域図の拡大表示は P189 を参照



▲本丸跡



▲小宮曲輪



▲松木曲輪



▲八王子神社付近の井戸跡 A



▲柵門跡



▲腰曲輪に位置する八王子神社

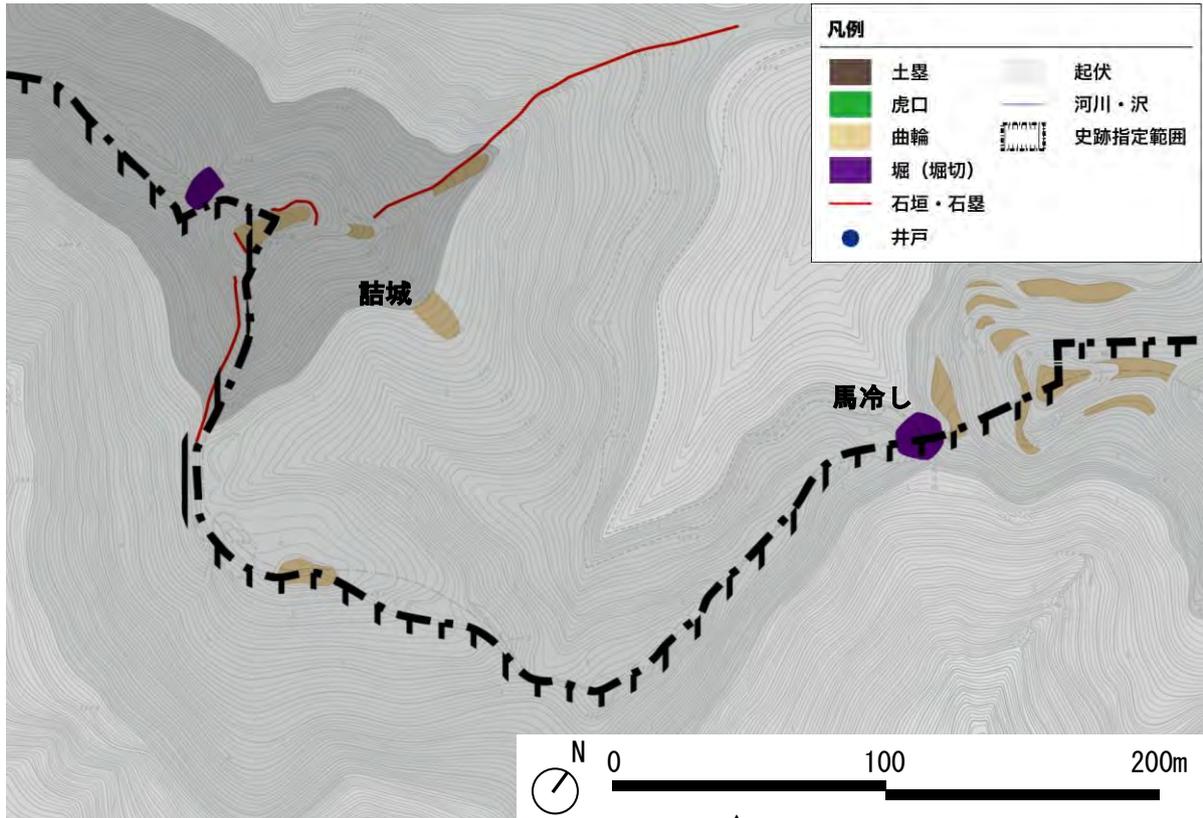


▲松木曲輪付近の井戸跡 B



▲高丸

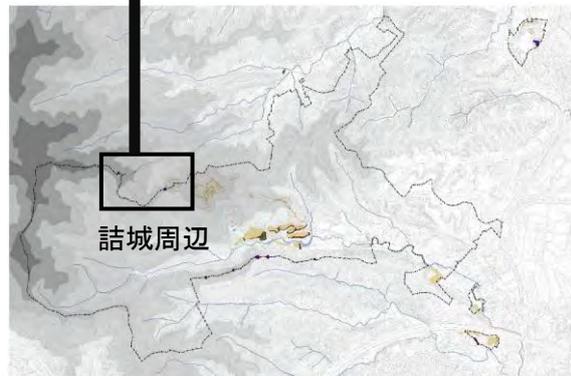
○詰城周辺



▲図表 81 地上に表出している要素の位置（詰城周辺）

詰城周辺には、詰城と呼ばれる尾根沿いに設けられた小さな曲輪が配され、尾根沿いや曲輪周りには石垣が設けられている。また、詰城から北西に延びる尾根の西斜面には、防御壁の要と考えられる石垣が続いている。その他、尾根沿いには、深い堀切が設けられる（図表 81）。

拡大表示



▲地上に表出している要素の位置（広域図）

\* 広域図の拡大表示は P189 を参照

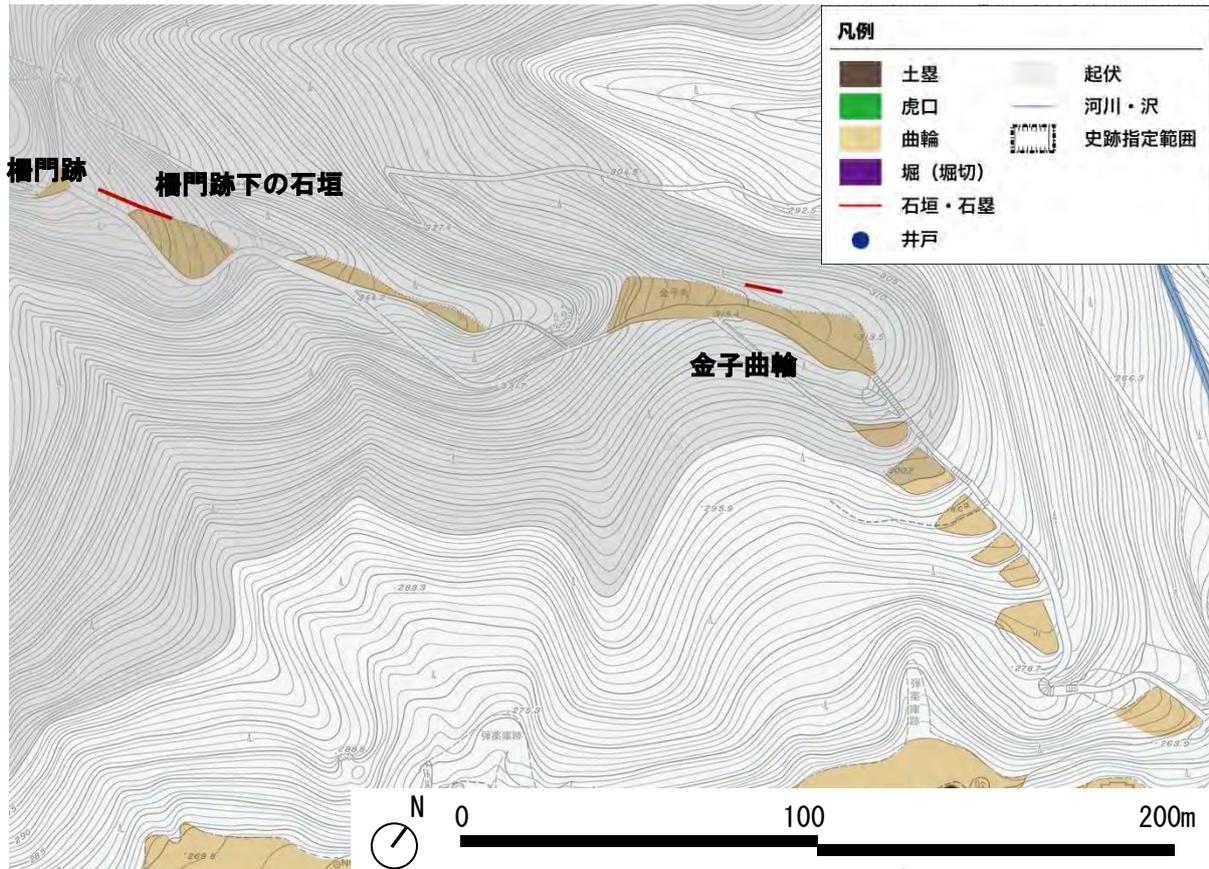


▲詰城



▲馬冷し

○金子曲輪周辺



▲図表 82 地上に表出している要素の位置（金子曲輪周辺）

金子曲輪周辺には、尾根をひな壇状にした曲輪が配され、その上部に細長い曲輪や小さな曲輪が設けられる。ひな壇状にした曲輪の上部の曲輪や柵門跡下には、北側斜面に一部石垣が見られる（図表 82）。

拡大表示



▲地上に表出している要素の位置（広域図）

\* 広域図の拡大表示は P189 を参照



▲金子曲輪

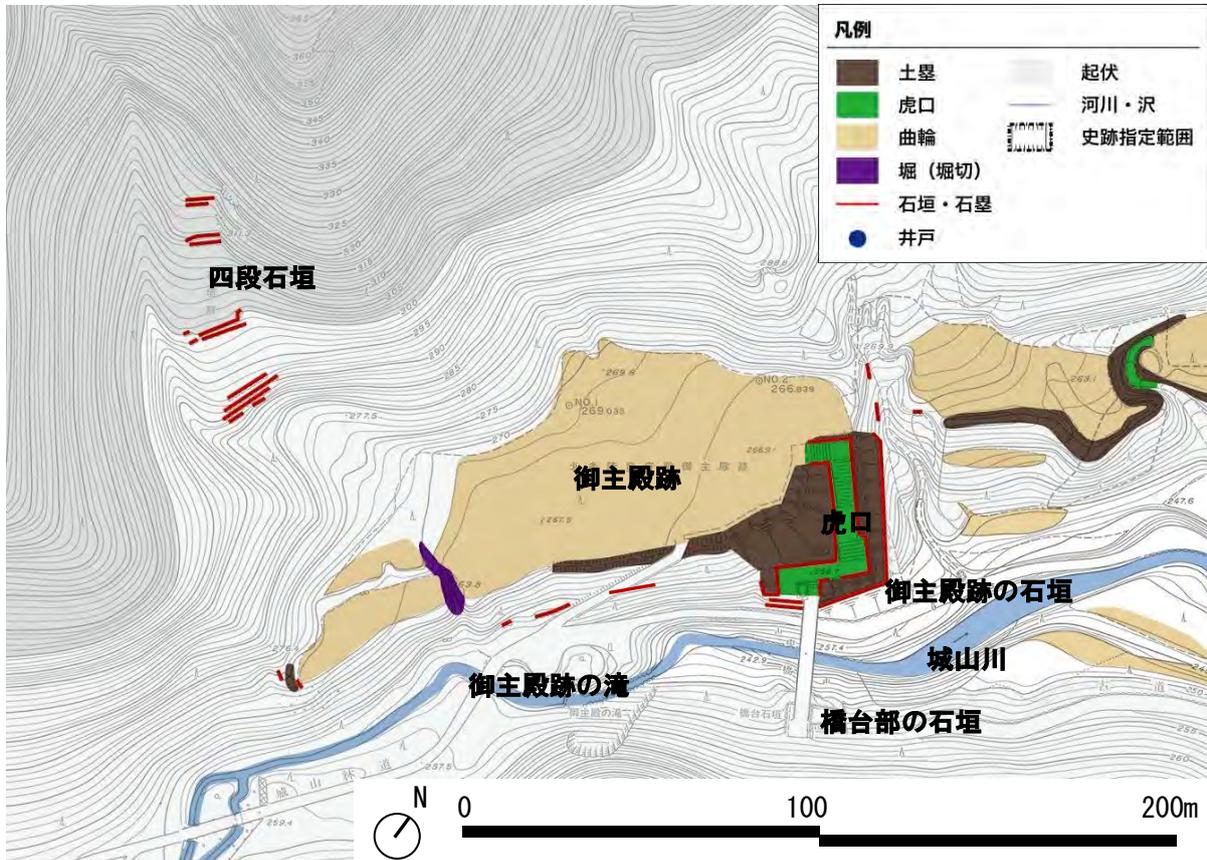


▲柵門跡下の石垣

**【居館エリアにおける構成要素】**

居館エリアは、城主である北条氏照の居館跡と考えられている曲輪を中心とした御主殿跡周辺、居館や倉庫の存在が想定されているアシダ曲輪周辺がある場所である。

**○御主殿跡周辺**



▲図表 83 地上に表出している要素の位置（御主殿跡周辺）

御主殿跡周辺には、東西約 100m、南北約 50m の削平造成地である御主殿跡となる曲輪、東および南側を土塁と石垣で囲まれ、北東部は枡形虎口が配される。枡形虎口の南側及び城山川の対岸には、曳橋の橋台部となる石垣が見られる（図表 83）。また、御主殿跡の曲輪には、主殿や会所等の建物跡、水路、堀、道跡とともに、池泉を中心とする庭園跡等の地下遺構が見られる。



▲地上に表出している要素の位置（広域図）  
\* 広域図の拡大表示は P189 を参照



▲御主殿跡の全景



▲庭園跡の地下遺構



▲御主殿跡の石垣（復元整備）



▲虎口（復元整備）



▲四段石垣



▲御主殿会所（復元整備）

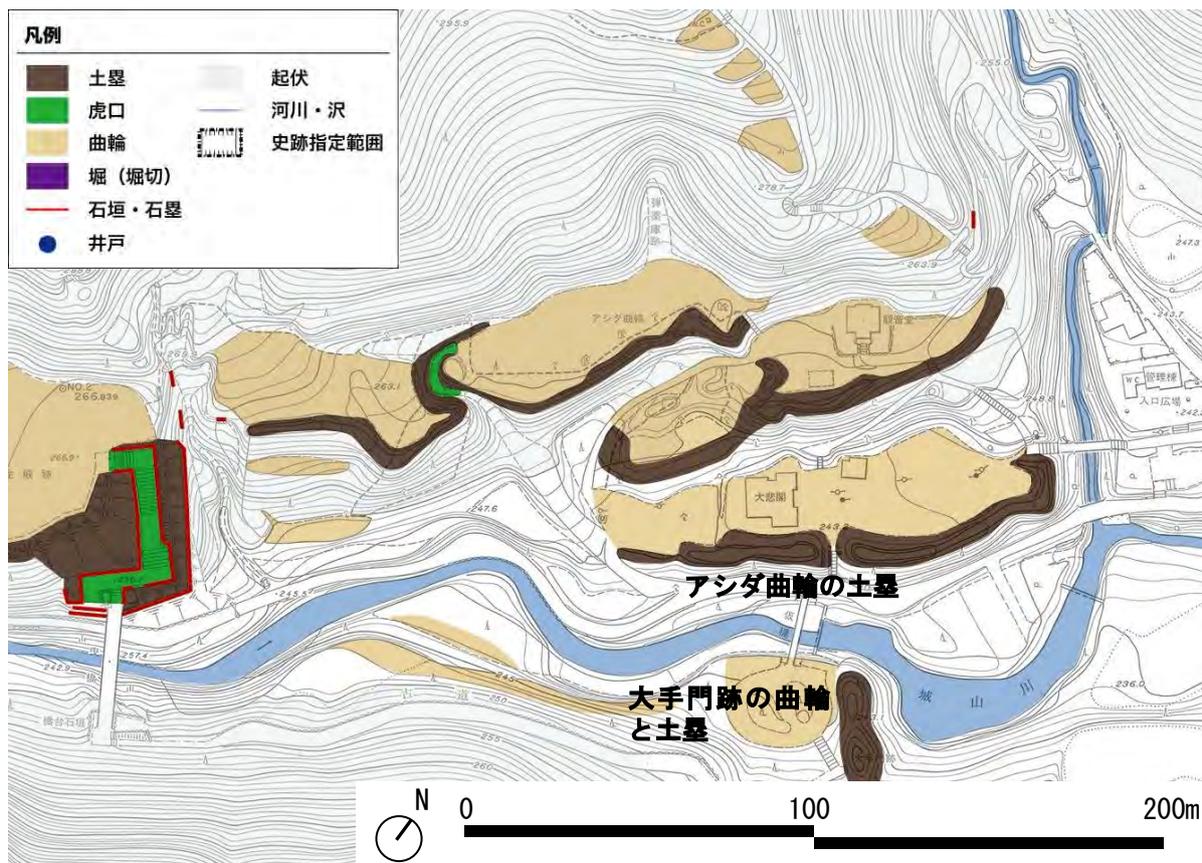


▲城山川



▲御主殿の滝

○アシダ曲輪周辺



▲図表 84 地上に表出している要素の位置（アシダ曲輪周辺）

アシダ曲輪周辺には、土塁に囲まれた曲輪が数段続いている。また、城山川を挟んでアシダ曲輪の対岸には、大手門跡として曲輪と土塁が配されている（図表 84）。



▲地上に表出している要素の位置（広域図）

\* 広域図の拡大表示は P189 を参照



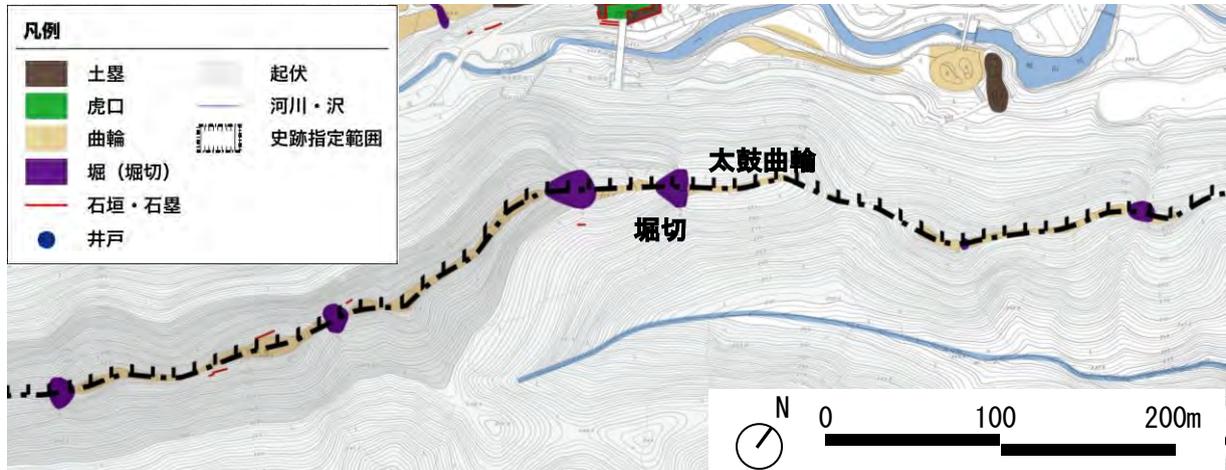
▲アシダ曲輪の土塁



▲大手門跡の曲輪

【太鼓曲輪エリアにおける構成要素】

太鼓曲輪エリアは、居館エリア南方の城山川を挟んだ場に位置し、尾根沿いに曲輪や堀切が設けられた場所である。



▲図表 85 地上に表出している要素の位置（太鼓曲輪エリア）

本エリアには、尾根上には細長い曲輪群、それらを分断する5つの堀切、斜面に一部石垣が残されている（図表 85）。



▲地上に表出している要素の位置（広域図）  
\* 広域図の拡大表示は P189 を参照



▲尾根沿いに位置する太鼓曲輪



▲曲輪を分断する堀切